

令和4年度第1回長野市環境審議会 議事録

【開催概要】

- ・日 時：令和4年8月30日（火）14時00分から16時00分
- ・場 所：長野市役所 第一庁舎5階 庁議室
- ・出席者
委 員：高木会長、穴山副会長、西川委員、錦織委員、六川委員、赤羽委員、荻原委員、濱田委員、早川委員、宮入委員、宮澤委員、若林委員、今吉委員、小笠原委員、塚田委員、松本委員
事務局：安塚環境部長、依田環境部次長兼環境保全温暖化対策課長、北村廃棄物対策課長、清水生活環境課長、細井資源再生センター所長、内山衛生センター所長、赤井主幹兼環境保全温暖化対策課長補佐、吉原環境保全温暖化対策課長補佐、岩間環境保全温暖化対策課主事、徳永環境保全温暖化対策課主事
担当課：新井新産業推進局バイオマス推進チーム課長、加藤新産業推進局バイオマス推進チーム主査

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付及び委員紹介
- 3 あいさつ
- 4 事務局紹介
- 5 正副会長選出
- 6 会長あいさつ
- 7 報告事項
 - (1) 令和3年度第二次長野市環境基本計画後期計画の取組結果及び令和4年度第三次長野市環境基本計画の指標・目標値の設定等について
 - ア 第二次長野市環境基本計画後期計画の取組結果とマネジメントレビューについて
 - イ 令和4年度指標・目標値の設定について
 - ウ 令和3年度市有施設のエネルギー使用量について
 - (2) 長野市バイオマス産業都市構想の進捗状況について
- 8 その他
- 9 閉 会

【資 料】

- ・本日の次第
- ・資料1 長野市環境審議会委員名簿
- ・資料2 事務局職員名簿
- ・資料3-1 令和3年度 第二次長野市環境基本計画後期計画の取組結果とマネジメントレビューについて
- ・資料3-2 令和4年度 指標・目標値の設定について
- ・資料3-3 令和3年度 市有施設のエネルギー使用量について
- ・資料4 長野市バイオマス産業都市構想の進捗状況について
- ・第二次長野市環境基本計画後期計画 概要版
- ・長野市バイオマス産業都市構想

【会議内容】

- 1 開 会

- 2 委嘱書交付及び委員紹介 【資料 1】
- 3 あいさつ
- 4 事務局紹介 【資料 2】
- 5 正副会長選出
委員の互選により決定
会長 高木委員 副会長 穴山委員
- 6 会長あいさつ
- 7 報告事項
- (1) 令和 3 年度第二次長野市環境基本計画後期計画の取組結果及び令和 4 年度第三次長野市環境基本計画の指標・目標値の設定等について
- ア 第二次長野市環境基本計画後期計画の取組結果とマネジメントレビューについて 【資料 3-1】
- イ 令和 4 年度指標・目標値の設定について 【資料 3-2】
- ウ 令和 3 年度市有施設のエネルギー使用量について 【資料 3-3】

(宮入委員)

資料 3-1-1 コード 14 のマイバック持参率について、令和 3 年度の目標値が計画目標値よりも高くなっているが、なぜか。

令和 3 年度の調査が未実施の理由はなにか。

第三次長野市環境基本計画の指標からは外れるのか。

(事務局)

マイバックに関しては、途中から国の制度として定められたため、率が上昇した。そのため、前年の実績値を令和 3 年度の目標値とした。

令和 3 年度の調査は、新型コロナウイルスの関係で協力を得ることが難しい状況であったため、未実施となった。

制度の変遷があったため、目標は達しただろうということで、第三次長野市環境基本計画では指標としなかった。

(宮入委員)

令和 2 年度に高い目標を達成され、令和 3 年度は計画目標よりも高い目標を設定したとのこと、意欲的だと感じたが、令和 3 年度が未実施とあると、努力の結果がうまく表現できていないことになってしまうため、また機会があれば工夫していただきたい。

(穴山副会長)

PDCA の観点から、資料 3-1-1 コード 34 のエコファーマーについて、データの推移を見ると年々減ってきており、令和 3 年度には、認定期間切れの対象者が多く、再認証する者が少ないとある。これは、この制度に認定してもらいメリットを感じられないこと、或いは、この制度自体が問題であり、周知をするというよりは、見直しが必要。令和 4 年度の基本目標 3-2 「生物利用等環境保全型農業推進事業の取組（戸数）」が、内容はおそらく違うが、エコファーマーの指標を引き継いだ指標だとすると、せっかくエコファーマーを計画に挙げて何年かやってきたわけなので、その反省をこの新しい指標にも生かし、PDCA をつなげるという視点が重要だ。また、目標値設定理由に年割とあるが、意義とこれまでやってきた取り組みを継承し、PDCA を回すという観点で、より中身を深めていただけると実質的に実りのある計画になると感じた。プレーヤーがぜひこれに関わりたいというインセンティブをもつような工夫もご考慮いただきたい。

(事務局)

担当の農林部と連携し、ご指摘の通り進めていきたい。

(西川委員)

資料 3-1-1、3-2 の指標の後ろに矢印があるが、どう見たらよいか。

(事務局)

現状値と比べ、その目標値が高くなるか低くなるかを示している。例えば、温室効果ガスは、排出量を減らす目標なので、下向き。環境学習会は参加者を増やす目標なので、上向きとなっている。

(高木会長)

資料 3-3 には原油換算の市有施設のエネルギー使用量があり、資料 3-3-1 には市役所の CO2 排出量がある。資料 3-3 の方にも CO2 排出量を付け加えていただきたい。

(錦織委員)

コロナ禍により活動が制限されることで、目標が達成できないということが多々あるかと思う。特に人が集まっての勉強会等は難しいが、with コロナということで、その中でも対応できるような方法を考えていかなければいけないと思う。そのあたりはどうお考えか。

学習会の参加者数の減少が目立つが、インターネットの活用についての考えはいかがか。

(事務局)

with コロナの例として、先日、ジョギングとごみ拾いを組み合わせたプロギングという新しい活動を商工会議所のエコ活動推進本部の皆さんと一緒にいった。資料 3-1-1 にもある通り、たばこのポイ捨て吸殻本数が増えていることもあり、活動する姿を見てもらえるように会社員の方たちの帰るような時間帯に実施した。研修会等と違い、屋外の活動なので、感染リスクも低いということで、実施した。

環境学習会に参加を希望される方にインターネット環境があるということが前提になると思うが、企画する際には、ウェブでの開催、リアルとのハイブリッドでの開催を検討したい。

(松本委員)

携帯用灰皿を配ることを考えてはいかがか。

(事務局)

実は、昨日の活動でも、そういった方がいらっしゃれば、お渡ししようと用意はしていたが、くわえタバコの方や表通りでタバコを吸ってらっしゃる方はいなかった。

(高木会長)

ランニングしている時に、そこにタバコがあることが分かっても、止まってタバコを拾うのはハードルが高いと感じている。それに比べると犬の散歩は、もともと糞を処理するためのゴミ袋とトングを持っており、かなりハードル低い。犬の散歩をしている人がついでにタバコを拾いたくなるような、例えば有名な犬の服のデザイナーとコラボして何かを用意する等のやり方もあるかと感じた。

(若林委員)

このデータ収集や監視に費やされる 1 ヶ月当たりの職員の稼働時間をお聞きしたい。

ごみのポイ捨てについて、最近読んだ記事に、ナッジ理論、仕掛学を活用して、市民が意識的に誰から強制されることもなく、ごみを整理している事例があり、スウェーデンではそれにより、街中がゴミゼロになったと載っていた。また、各個人の行動変容を促す取り組みにより、効果が上がっているとあった。せつかく定めた目標が絵にかいた餅にならないよう、そういった取り組みも行い、DX 化も図りつつ進めると効果的だと思う。

(事務局)

指標目標の評価、集計は、それぞれ事業を実施している担当課が色々あり、その担当課が実績を集める頻度は様々である。全庁的に集計を簡易にできるよう検討していきたい。こちらに報告をもらうのは、年 2 回である。

ポイ捨ての話を含めて色々ご提案いただいたが、ご提案のとおり自主的にというのが持続可能性として重要だと考えている。先ほどのお話のプロギングについても、ジョギングで健康づくりをしながら、環境にもいいことをとを考えていただけるのではと始めさせていただいた。これから

環境美化取り組む際にも、同じよう視点で、やらされるという形ではなく、自主的に気軽に皆さんがやれるような形を考えていきたい。

(穴山副会長)

学習会の参加者数等は活動指標であり、成果指標自体ではないので、柔軟に捉えて、代替的に補完できれば、成果に向かっているという捉え方もできると思う。幅広く考えて、イーラーニング的にサイトを工夫してみるとか、ゲーム的な要素を入れて、それをクリアすると何かバッジがもらえるとか、ランクが上がるとか、或いは他の人と競ってやっていくとか、いろんなことで楽しみながら参加して、かつ学べるという工夫もできようかと思う。そういったご検討をいただくと、参加人数にとらわれず、今のDX化とコロナ禍で、より望ましい方向に向かうのではと思う。

(事務局)

ご意見参考にさせていただき、取り組ませていただく。

(2) 長野市バイオマス産業都市構想の進捗状況について

【資料4】

(赤羽委員)

4ページにパーセンテージが載っているが、これの分母と分子は何か。

6ページに「湿潤量」とあるが、これはどういうものか。

10ページにバイオブリケットとあるが、木材の薪と価格比較した場合、どれくらいを予定されているか。

(新産業創造推進局)

4ページの49%という数値は、長野市の未利用バイオマスの利用率で、長野市内に未利用バイオマスがどれくらいあるかを推計した賦存量を分母とし、このうちの現在使われている推計量を分子としている。

湿潤量については、バイオマスには含水率が高いものも低いものもあるが、実際の湿潤したままの量を湿潤量としている。乾燥した量は、炭素換算量の方でイメージしていただければと思う。

バイオブリケットの価格は、まだ事業所で販売していないため、未設定というのが結論だが、利用に対しインセンティブが働くよう、化石燃料や薪等と比較しながら、特に化石燃料と価格競争できるくらいになっていただきたいという要望を事業所に伝えている。

(小笠原委員)

きのこ廃培地について、6ページの目標の湿潤量が50,676t、9ページ①のバイオブリケット化目標が600tとなっている。きのこ廃培地は、農家の方にもものすごく人気がある。この目標値は、農地でも利用するということでよいか。

(新産業創造推進局)

農地での堆肥利用も利用率の中に入れていく。

(高木会長)

6ページの製材所端材の利用率の目標炭素換算量が220%となっているのはいいか。

(新産業創造推進局)

製材所端材に関しては、賦存量が増える見込みをしており、令和2年度の賦存量に対して、220%である。

(穴山副会長)

ご報告の中に2MW級の設備があったが、ちょうどFITとFIPのボーダーになると思う。今、見込みをFITで立てているが、今後見直しが進んで、FIPのボーダーが下がってくることもあり得るので、そうしたことも念頭に経済性を見積もりをとって、PDCAを回していただければ。仮にしばらくFITが継続するとしても、国民負担のもとに高いものを使うということなので、技術の促進等いろんなことを加味して、できるだけ事業のコストダウンに努めていただくと国民経済にもプラスになると思う。

(新産業創造推進局)

2MWの設備に関しては、おそらくFITで事業者が事業計画を立てている。電気事業関係は、非

常に法律が動くと感じているため、しっかりアンテナを高くして対応していきたい。また、国民負担ということを事業者とともに重く受けとめる中で対応していきたい。

(宮入委員)

第三次長野市環境基本計画に SDGs 未来都市計画の記載があるが、バイオマス産業都市構想との関わりはどうか。

長野地域連携中枢都市圏で周辺の市町村一体となつてと耳にしているので、その関連があれば参考までに教えてほしい。

(新産業創造推進局)

SDGs 未来都市計画は、令和3年5月に国から認定をいただいている。バイオマス産業都市構想を SDGs 未来都市計画の柱の一つとして、環境、社会、経済の3側面からもう一度組み立て直して作ったのが SDGs 未来都市計画であり、バイオマス産業都市構想を進めていくことイコール SDGs 未来都市計画を推進していくことになる一体的なものと理解している。

長野地域9市町村の長野地域連携中枢都市圏という枠組みでは、昨年度に9市町村でのゼロカーボン宣言を行っており、このバイオマス産業都市構想も9市町村の取り組みとして続けている。バイオマス産業都市のメリットは、長野市内で行う事業について、ある程度補助が出やすくなることなので、市内の事業に関わっているが、材の調達等、連携市町村としっかりスクラムを組んで、推進していく。

(宮入委員)

折に触れて、長野市の環境、バイオマスのプロジェクトが長野市にとって、SDGs 未来都市という点でも重要な施策であることも PR していただければ。また、参考という意味でも、長野地域連携中枢都市圏を巻き込んでの波及効果も色々な面で PR していただきたい。

(錦織委員)

④その他のバイオマス活用プロジェクトにアとイがあるが、どちらも油の燃料化というところでは、同じような技術にも見えるが、連携することはあるか。また、アとイに分けているポイントや理由をききたい。

(新産業創造推進局)

2つのプロジェクトは、違う事業者がそれぞれの収益事業として考えているものである。アは、廃食用油という比較的、質の良い燃料であり、最近では廃食用油用のボイラーが出てきていると聞くため、アの方は少しハードルが低く、汎用的な技術だと考えている。一方、イは、廃食用油だけではなく、ラーメン屋の背油等も入ってくるので、同じようにはいかないと感じている。イの事業者は、出口側のところも含めて、今後、ノウハウの積み上げが必要だと言っているため、私どもも伴走支援していきたい。

(高木会長)

11 ページ①に街路樹の剪定枝とある。私が都市の熱の問題を扱っていた時に、街路樹はヒートアイランド対策にとっても良いものだが8月の中旬ぐらいになると切られてしまうので、理由を聞いたことがあった。商店街の人に葉が落ちるのを嫌がられるため、落ちる前に切っているとのことだった。もちろん葉が落ちてそれを掃除する商店街の人がたまらんというのは分かるが、今これだけ気候が変わってきて、熱中症等が問題になっているので、都市の熱問題への意識はかなり上がっていると思う。できるだけ涼しくなってから切っていただけると嬉しい。今、いつ切っているか把握してないが、聞いてみてほしい。

(新産業創造推進局)

今、現状を承知していない。どんなことができるのか、環境部や関係部局と相談しながら、どんな形がいいのか検討したい。

(高木会長)

この報告は、1年に1回ぐらいあるというイメージでよいか。

(新産業創造推進局)

6番のスライドにあるように毎年、それぞれの事業進捗、取組工程のどんな状況まで来ているかを示させていただき、原料使用料、燃料製造量をご報告させていただきたい。

○ 全体を通して

(今吉委員)

現在、長野市篠ノ井中央公園で長野市の緑化推進と緑育に携わっている。学校に職員が出向いて緑育活動を行うことを一つのプロジェクトとしてやっているが、学校からかなり要望があり、選定して何校か選ぶというような状態である。専門の方に来てもらい、小さなお子さんから環境問題等に専門的に取り組めるのは、学校の先生方としても良いのではと思うので、そんな活動もしていただけたら。

(事務局)

担当部局の方にもお伝えをさせていただく。また、市政出前講座というものがある。テーマをお伝えいただくと、市職員が出向き、お話をさせていただくというものなので、そちらもご活用いただければと思う。

(若林委員)

環境保全という中で、温室効果ガスの削減等の対策は、具体的にどういうことを、今までされたのか、また今後、具体的にどのようなところに取り組んでいきたいのか、教えてほしい。

(事務局)

環境の話は、ゴミやし尿のお話、いわゆる衛生センター、清掃センターの稼働から始まり、それから公害の話、騒音、煤煙、水質の管理を行うようになってきた。最近の話だと、地球温暖化対策をしなくてはならないとのことで、環境基本計画の中でも一番重きを置いている。もちろん今まで課題であったものも今現在の課題ではあるが、環境分野の話の焦点は順々に移ってきており、この他に、プラスチックスマート、海洋汚染、という分野も新たに出てきている。国連等の一番大きなところで、どういったところを目標、ターゲットとしているのかということから、基礎自治体として我々にできることをやっていく活動と理解している。

(若林委員)

地球温暖化防止が社会で非常に注目されている。その中で、長野市が地球温暖化防止のために、具体的な取り組み、例えば緑化を利用してとか、そういった具体的な活動目標や事例みたいなものはないか。

(事務局)

環境基本計画の中で、長野市ができる分野とすると、例えば温室効果ガスの年間排出量を令和8年度にはこのくらいまで減らしましょうという風にそれぞれ単位だて、目標値をたてているという仕組みである。

(穴山副会長)

第三次長野市環境基本計画冊子の第4章の基本目標1に若林委員ご指摘の脱炭素社会の構築がある。20ページからは、グローバルな温暖化問題に対して、問題の所在や長野市の具体的な計画と取り組みが書かれている。森林については、46ページに計画の中の具体的なアクションが挙がっており、網羅的に省エネルギーにしましょうとかこういう森林の整備を進めましょうとかということに市としてどう取り組むかが書かれている。

(西川委員)

資料3-2の目標値について、例えば、「協働と学びの推進」で、参加する人数だけだと、質的なものが評価できない。それによる効果が見えるべきではないか。

資料3-2表側の3-3「市民一人当たりの都市公園面積」は、平米と人で示されているが、指標が2つあって、判断しづらい。人口が減っているというのもあり、分かりにくい指標だと思った。効果が上がったことが分かる指標設定だと、市民の皆さんも理解しやすいのではないかと思う。

(高木会長)

「市民一人当たりの都市公園面積」は、全国統一の指標となっているため、長野市としても出さないわけにはいかないが、確かに、人口が半分であれば一人当たりの面積が倍とていうのは違うので、工夫がいる。今すぐではないが、ちょっと考える必要がある。確かに長野市の公園が多くなり生活しやすくなった、緑が多くなって豊かになったという実感と相関性の高い指標になっていると良いということか。

(西川委員)

そういうところもある。参加の人数も、その人数クリアしなければ、成果でバツになってしまうが、それは本当に未達成なのかどうかと思った。補完するような、質的な評価がされながらだと、バツではなく、本質的には三角やもう少しという評価をできるのではと思った。

(高木会長)

原則的にはものすごく難しいこと言っていることは間違いないが、検討する価値はあると思う。良い方法がないか担当の皆さんの中でお考えいただければ。

(塚田委員)

不揃いのストロープロジェクトに関わっている。麦わらの茎を使って、ストローを作るという取り組みである。長野市とも一緒に取り組んでいけたらと思う。

サンマリーンの屋上の斜面のところの草がすごいので、ヤギを放したらいいのではないか。除草ヤギは、他の自治体でも活用されている事例がある。サンマリーンはごみ処理場でもあり、子供たちも来る場所でもあるので、ヤギを飼う場所として良いと思う。

(事務局)

施設の担当に相談させていただきたい。

(宮入委員)

最近、私たちの活動では、グリーンインフラという面に着目している。国、県、市も緑が持っている多様な機能をグリーンインフラにしていこうとなってきたので、指標の効果の中でグリーンインフラを取り入れていただければ。流域治水や雨水の貯留等の面でも非常に効果の高い取り組みなので、長野市では特に重要である。重要な指標になるのではないかと思いますので、新しい目標として参考させていただきたい。

(小笠原委員)

35年間長野市でトンボを調べている。「大切にしたい長野市の自然」はとてもよい。そこにトンボのことが書かれているが、改定して出してもらえたらありがたい。トンボを調べている関係でも地球温暖化も感じている。

昨年、千曲川の河川モニターを務めたが、自然の様子はずいぶん変わった。

ゴマシジミやぼんすけの保護など色々な活動をしている人たちが長野市にいたので、そうした情報が見えるようになったらいいと思う。

(若林委員)

先ほどの44、45ページの件だが、44ページ「民有地の緑化推進」、45ページ「ヒートアイランド対策の推進」について、具体的にどのような対策緑化をされるか。また、市役所の建て替えに伴い、建物緑化はされているか。

(事務局)

市役所の建て替えに伴う緑化は、第一庁舎の南側にある桜並木、第一庁舎と芸術館の間にある広間等であり、緑と一体になったものというのが第一庁舎のコンセプトの一つになっている。

より具体的な緑化対策については、公園緑地課に確認し、お答えさせていただきたい。

8 その他

9 閉会

※若林委員からの質問について、事務局からの回答

(質問)

- ・「民有地の緑化推進」、「ヒートアイランド対策の推進」について、具体的にどのような対策緑化をされるか。

(回答)

- ・公園緑地課からの回答

施策	具体的な取り組み	状況
民有地の緑化促進	・工場、事業所などにおける緑化を推進します。	「緑を豊かにする条例」に基づき事業所や工場、大規模な駐車場等をつくったりする場合、一定の緑化とその後の適切な管理について義務付けており実施していただいております。
ヒートアイランド対策の推進	・「まちづくりにおけるグリーンインフラの推進に向けた計画」に基づき、長野市のまちづくりに街路樹や建物緑化などのグリーンインフラを浸透させ、環境負荷の低減や防災機能の強化を図るとともに、魅力あるまちづくりを目指します。	長野県で策定した「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」により長野市のまちなかに緑を創出するために現在プランを計画し進めております。